



《研究主題》
自分の思いや考えをもち 書くことができる子

目指す児童像

低学年：自分の思いや考えをもち、順序よく文章が書ける子
 中学年：自分の思いや考えをもち、目的や相手によって言葉を選択して文章が書ける子
 高学年：自分の思いや考えをもち、目的や意図に応じて筋道の通った文章が書ける子

研究仮説 1

「自分の考えを書きたい。」と思うような学習や、子供たちが日々、自分が本当に伝えたいことのために言葉を吟味し、駆使していく学習を積み重ねることにより、自分の考えをもち、書くことができるであろう。

研究仮説 2

子供たちが夢中になって、様々な目的や相手に応じて「知りたい。」「伝えたい。」といった思いや願いを膨らませながらの多彩な言語活動を経験させることにより、語彙が豊かになっていくであろう。

研究内容

低学年

- 「ことばのたからばこ」に記載されている語彙を積極的に使用し、相手意識をもたせて日記や手紙を書く活動を行う。
- 児童の良い作品を紹介したり、書き方の型を教室に掲示したりして書く活動を行う。

中学年

- 書くことが楽しいと感じさせることで、もっと分かりやすく、伝わりやすく書くにはどうしたらいいか児童自ら言葉を選択できるような学習活動を行う。

高学年

- 教科書において学習した、「書くこと・語彙に関する内容」について学習後も活用できる「書き方・語彙大切集」とし、算数のワードバンクのように書く学習の際に適宜活用できるようにする。

研究内容

低学年

- 朝学習の時間に、担任による読み聞かせや、読書の時間、「ことばであそぼう」プリントに取り組む。
- 言葉絵辞典を班に1冊用意し、授業で積極的に活用する。

中学年

- 目的や相手意識を明確にもつことで、読む相手が分かりやすいように文章を書く活動を行う。
- 通年国語辞典を使う活動を通して、新しい言葉にふれ、語彙を増やしていく。また、火曜日の朝学習では辞書引きの時間にする。

高学年

- 教科書巻末の「言葉の宝箱」に記載されている語彙や言い回しのバリエーションを教室掲示し、書く学習の際に活用する。また、新たに学んだ語彙をそこに追加していく。